

平成 29 年 9 月 22 日

北朝鮮による弾道ミサイル発射時の対応の基本方針

呉市立明德小学校
呉市立明德中学校

1 始業前に、緊急情報①が発信された場合

- (1) 登校前の児童生徒は、「自宅待機」とする。
- (2) 登校中またはすでに登校している児童生徒は、「別紙 2」の行動例を参考に対応する。
- (3) その後の緊急情報に応じて、次のようにする。
 - ア 「緊急情報 A」が発信された場合、「臨時休業」とする。
 - イ 「緊急情報 B」が発信された場合、「自宅待機」とする。
 - ウ 「緊急情報 C」が発信されたら、その時点で「登校」する。ただし、バスの運行状況等により児童生徒の通学に支障が出ると校長が判断したときは、「臨時休業」とする。

2 始業後に、緊急情報①が発信された場合

「別紙 2」の行動例を参考に対応する。

3 下校中に、緊急情報①が発信された場合

「別紙 2」の行動例を参考に対応する。

別紙 1 「北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合における Jアラートによる情報伝達の流れ」

別紙 2 「弾道ミサイルが落下する可能性がある場合にとるべき行動例について」

北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合におけるJアラートによる情報伝達の流れ

広島県が対象地域となった場合に、Jアラートと『防災行政無線放送』が連動し、緊急情報①が放送されます。

※ 緊急情報①の後、状況に応じて緊急情報②、③、追加情報などが放送されます。



緊急情報

①

ミサイル発射情報・避難の呼びかけ

「ミサイル発射。ミサイル発射。北朝鮮からミサイルが発射された模様です。建物の中、又は地下に避難してください。」

※ 緊急情報②にある〈緊急情報A・B・C〉は、呉市教育委員会でわかりやすいように示したもので、緊急情報の中で実際に使用される言葉ではありません。

(1) 日本の領土・領海に落下する可能性がある
と判断した場合

(2) 日本の領土・領海の上空を通過した場合

(3) 日本の領海外の海域に落下した場合

〈緊急情報 A〉

直ちに避難することの呼びかけ

「直ちに避難。直ちに避難。直ちに建物の中、又は地下に避難してください。ミサイルが落下する可能性があります。直ちに避難してください。」

〈緊急情報 B〉

ミサイル通過情報

「ミサイル通過。ミサイル通過。先程、●●地方から●●へ通過した模様です。不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察や消防などに連絡してください。」

〈緊急情報 C〉

落下場所等についての情報(日本の領海外の海域に落下)

「先程のミサイルは、●●海に落下した模様です。不審な物を発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察や消防などに連絡してください。」

緊急情報
②

緊急情報
③

落下場所についての情報(日本領土・領海に落下)

「ミサイル落下。ミサイル落下。ミサイルが●●地方に落下した可能性があります。続報を伝達しますので、引き続き屋内に避難してください。」

※ 全国瞬時警報システム (Jアラート) について

北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合には、全国瞬時警報システム (Jアラート) を使用し、緊急情報を伝達します。
Jアラートを使用すると、市町村の防災行政無線等が自動的に起動し、屋外スピーカー等から警報が流れるほか、携帯電話にエリアメール・緊急速報メールが配信されます。なお、Jアラートによる情報伝達は、国民保護に係る警報のサイレン音を使用し、弾道ミサイルに注意が必要な地域の方に、幅広く行います。

(内閣官房 国民保護ポータルサイトHPより抜粋)

追加情報

内閣官房 国民保護ポータルサイトを参考に作成
<http://www.kokuminhogo.go.jp/shiryou/nkjalert.html>

別紙 2

弾道ミサイルが落下する可能性がある場合にとるべき行動例について

(平成29年4月21日付け消防国第38号，消防運第24号「弾道ミサイル落下時の行動等について」を参考に作成)

1. Jアラートを活用した緊急情報が発信された場合の行動例

○ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は，Jアラートを通じて，防災行政無線等で特別なサイレン音とともにメッセージが流れるほか，緊急速報メール等によって緊急情報が発信されるので，メッセージが流れたら，落ち着いて直ちに次の行動をとることが求められる。

【屋外にいる場合の行動例】

- ・近くのできるだけ頑丈な建物や地下などに避難する。
- ・近くに適当な建物がない場合は，物陰に身を隠すか地面に伏せ，頭部を守る。

【屋内にいる場合の行動例】

- ・できるだけ窓から離れ，できれば窓のない部屋へ移動する。

【自動車の車内にいる場合の行動例】

- ・車は燃料のガソリンなどに引火する恐れがあるため，車を止めて頑丈な建物や地下街などに避難する。周囲に避難できる頑丈な建物や地下街などが無い場合，車から離れて地面に伏せ，頭部を守る。
- ・高速道路を通行している時など，車から出ると危険な場合には，車を安全な場所に止め，車内で姿勢を低くして，行政からの指示があるまで待機する。

2. ミサイルが着弾した場合の行動例

○ミサイルが着弾した場合に取るべき行動の例は以下の通り。

- ・近くにミサイルが着弾した場合は，屋外にいる場合は，口と鼻をハンカチで覆いながら，現場から直ちに離れ密閉性の高い屋内の部屋または風上に避難する。屋内にいる場合は，換気扇を止め，窓を閉め，目張りをして室内を密閉する。
- ・弾頭の種類に応じて被害の様相や対応が大きく異なるため，テレビ・ラジオ・インターネット等を通して，情報収集に努めるとともに，行政からの指示があればそれに従って，落ち着いて行動する。